

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都手をつなぐ育成会 中央区立子ども発達支援センター放課後等サービス		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2024年 12月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	83名	(回答者数) 44名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日 ~ 2024年 12月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画作成時に児発管を含めた全職員で考えながら作成をしている。	個別支援会議前に事前に児発管以外の職員にも個別支援計画の目を通して、追加修正点等を考えてもらっている。	契約者数が多く、作成に時間がかかってしまうため、計画的に作成を行って余裕を持って取り組めるようにする。
2	施設の運営上その日中に支援の振り返りや情報の共有は出来ないが翌日の朝礼時に時間を設けて共有する場を作っている。	朝礼で話したことについては参加していない職員も確認できるように業務日誌に転記し、非常勤職員も確認する体制を作っている。 利用児の些細な変化でも情報の共有をするようにしている。	現状の情報共有方法を継続していき、不具合などが生じた時には改めて共有方法などを検討していく。
3	利用児、保護者が安心して楽しく過ごせる支援を提供できている。	・利用している児童が楽しく過ごしていただく中で身辺自立や社会性などが身に付けられるように一人一人に合わせた支援を提供している。 ・令和6年度4月より乗車可能人数を増やすために送迎車を1台追加している。	これからも利用している児童が安心して楽しいと思える空間の中で充実した活動が提供できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トラブル(痛痛、体調不良など)が起きた時に他利用児へ影響しない空間を作る事に課題がある。	活動室内で別対応できるスペースを作ることが難しいため。	状況に応じて、2部屋ある活動空間での利用児の部屋移動などを検討していく。
2	災害時の施設の対応や避難訓練の実施状況等を保護者に知っていただく機会が少ない。	特にお知らせなどはしておらず、実施日の連絡帳に記載するのみだったため。	通信などに実施状況を載せる等知ってもらう機会を増やしていく。
3	家族支援の部分について足りないところがあると感じる。	保護者からの相談の対応は行っているがそれ以外の部分(研修会などの情報提供)などは情報を集めることが出来ず取り組めていない。	児童関係や関わりのある研修等の開催の情報が入ったら、保護者への情報の共有を行っていく。